

さくら



令和6年6月17日(月)

真の友とは



いろいろなお経を集めた、大蔵經(だいそうきょう)という經典(きょうてん)があります。その中の「亨經抄(はいきょうしょう)」という部分に、友には四品(しほん)ありと書かれています。四品とは四種類のことです。四種類の友について次に示します。

華(はな)のような友

金儲けがうまくいくなど、物事が順調なときには大勢の人がすり寄ってきます。しかし、物事がうまくいかず、助けが必要になると去っていく人が多くいます。友人関係を損得だけで考える人のことです。

秤(はかり)のような友

お金を持っているかどうか、どんな身分の人かなどを秤にかけて人付き合いをする人のことです。こんな人も、付き合いにメリットがないと思うと、すぐに掌(てのひら)を返したように去っていきます。

山のような友

何も話さなくても、その人のそばにいただけで、優しさや温かさが伝わってくるような人のことです。こんな友を持つことができれば、困難に遭ったときでも、心を落ち着かせることができそうです。

地のような友

人との付き合いに見返りを求めず、惜しみなく力を貸してくれる友です。そこには、一切の損得勘定はありません。こんな友を持つことができれば、どれだけ心強いことでしょうか。

今までたくさんに人に出会ってきました。振り返れば「華のような友・秤のような友」も少なからずいました。このような人は、最初から胡散(うさん)くさい場合もあるのですが、付き合ってみて次第に本性が分かる場合もありました。このような人との付き合いは長続きしませんでした。逆に「山のような友・地のような友」との付き合いは、今でも続いています。

友は一生の宝です。ですから、山や地のような友に巡り会うことは、よりよい人生を送るためにも必要なことだと思います。ただし、そのような友に巡り会うためには、他者から見た自分自身が、山や地のような存在になるための努力を怠らないことが大切です。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

